

(様式4)

平成31年3月22日

富山県教育委員会教育長 殿

学校名 富山県立高岡南高等学校
校長氏名 中村 達麻呂

平成30年度学校総合評価を別紙(様式5)とともに提出します。

平成30年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度は、「進路支援」、「学校生活」、「学校の活性化」、「ボランティア活動」、「教師力向上」の5領域で重点項目を決め、それぞれ達成目標を定めて取り組んだ。

(1) 進路支援

本校生徒は安易な方向に流れて学習が継続できなかったり、目標を諦めるのが早く最後まで挑戦する気持を持ち続けられない生徒が少なくなく、生徒の持っている素質や能力からすると、十分に生かされたとは言い難い進路結果であった。

(2) 学校生活

最近生徒は、地域の方々から、礼儀正しく、身だしなみもきちんとしていっていると評価を受けるようになってきた。また、種々の活動においては、生徒自身が自発的に取り組んでいる。

(3) 学校の活性化

キャリアデザインプロジェクトSで、自らの生き方や在り方を考え、将来への目標を持たせるような授業の充実を図った。生徒は意欲的に取り組み、報告会などの機会を経て、自己表現力が高まってきている。

(4) ボランティア活動

「クリーン大作戦」と銘打って、各学年ともクラス単位や学年単位で、地域または校舎内外の清掃活動を実施し、生徒は積極的に取り組んだ。

(5) 教師力向上

若手教員が増加し育成体制は整いつつある。また、年次研修を活かした、若手教員と中堅教員、ベテラン教員が学び合う校内研修を実施した。

7 次年度へ向けての課題と方策

(1) 進路支援

・面接による生徒支援は次年度も変わらず実施し、大学への出願に関しても、今年度の育成計画を検証し、次年度の対策に生かしたい。

(2) 学校生活

・生徒自身から自発的なあいさつ、さわやかな身だしなみができるよう積極的に働きかけ、また全職員で情報を共有し、意識の統一をはかりたい。

(3) 学校の活性化

・キャリアデザインプロジェクトSと称した一連の活動それぞれについて、目的と計画を明確にし、校内の諸活動を積極的に地域の方に公開して、様々な形で助言をいただくことにより、活動内容に社会的な視点を持たせるようにする。

(4) ボランティア活動

・クラス単位・学年単位で同一内容の活動に取り組むことで、生徒の意識も向上したと思われるので、来年度も継続して実施し、ボランティアに対する理解をさらに深めたい。

(5) 教師力向上

・互見授業、研究授業参観への呼びかけを積極的に行い、参観後の振り返りや外部の研修受講後の報告会等による情報共有ができるような工夫をしていきたい。

※ A4判1枚

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成30年度高岡南高校アクションプラン - 1 -	
重点項目	進路支援
重点課題	(1) 3年間を通して挑戦する気持と諦めさせない心を育成するとともに、全校協力態勢のもと粘り強く最後まで指導し、生徒の第一志望校(願書出願をした大学の中で最も行きたい大学)合格を支援する。 (2) 一人一人の生徒を理解して実態を的確に把握した上での学習習慣の育成や進路指導が重要という意味で、面接指導の充実を図る。
現 状	・生徒の持っている素質や能力からすると、十分に生かされたとは言い難い進路結果である。安易な方向に流れて学習が継続できなかつたり、目標を諦めるのが早く最後まで挑戦する気持を持ち続けられない生徒が少なくない。
達成目標	(1) 生徒の第一志望校(願書出願をした大学の中で最も行きたい大学)合格率
	(2) 生徒1人あたりの面接実施回数(担任、副担任、授業担当者)
	卒業生数の65%以上
	1・2年生:6回以上、3年生:12回以上
方 策	(1) 学習時間のスタンダードは、〈平日:1年・2時間、2年・3時間、3年・4時間〉〈休日:1年・4時間、2年・6時間、3年8時間〉とし、全体に周知を図りながら学習時間を位置づけた生活習慣を身につけさせる。なお、3年生は体育大会後は平日5時間、休日10時間を標準とする。 (2) 1年生の初期指導を重視する。また、面接週間以外に校外模試の自己採点時での面接を必須とするなど面接指導を通して生徒の気持ちを前向きにさせる。 (3) 大学入学共通テストに対応し、定期考査の約1割は思考力を試す設問とするなど授業やテストを通して思考力の養成を図る。 (4) 高い志望校の設定を指導しながらそれを貫かせるように支援する。また、そのことを通して挑戦する気持と最後まで諦めない心の育成を図る。 (5) 校内外テストの成績状況や結果を分析し、今後の指針となるような資料を作成するとともに校内全体で各学年の情報を共有できるよう努める。 (6) 3年生の進路支援を全校協力態勢を確認しながら充実を図る。特に、センター試験後の2次試験対策を強化し、生徒の第一志望校合格を支援する。
達成度	(1) についてははやや不十分であった。 (2) については、各学年とも目標以上に達成できた。
具体的な取組状況	(1) 毎朝、前日の学習時間を書かせることを通して自分の生活を振り返らせている。9月中旬段階で、1年・2年とも(平2+α<135分>・休3<180分>)ぐらいであり、3年生は(平4<240分>・休7<430分>)というのが現状である。 (2) 1年生については、生活指導と面接を中心に初期指導(早く高南の生徒にする)を全校で展開した。1学期の早い段階からその効果(例えば、挨拶などがきちんとできる)が現れている。 (3) 定期考査に入れた思考力問題とその評価や検証についてのレポートを、各学期末に全校の職員に提出してもらって冊子にまとめている。どの程度生徒の思考力を養成できているか客観的に判断することはできないが、全校的な展開として今後取り組んでいくつもりである。 (4) 3年生12月段階で、難関10大学志望者が29名(東大0・京都2。昨年の難関10大学志望者35名)となっているので、ほぼ例年並と考えて良い。もちろん、センターの結果で変化はあるが、難関大学だけでなく全校を挙げて最後まで支援する態勢になっている。 (5) 各学年とも外部模試の結果分析を模試ごとに行い、全員がすべての学年の状況や情報を共有できる仕組みになっている。 (6) 3年生の成績状況や志望状況は、全校で共有する仕組みになっている。学年の枠を超えて、全校態勢で3年生を支援する。
上記方策の(1)～(6)に対応して記述	
評価	C
学校評議員の意見	・予習、復習等の初期指導を重視し、生徒がしっかりと目標を持ち、進んでいけるような学習指導と面接を心がけてほしい。
次年度に向けての課題	(1) 面接による生徒支援は次年度も変わらず実施していきたい。 (2) 第一志望校の合格率が判明した時点で原因を探り、次年度の対策を考えたい。 (3) 難関大学志望者の少なくとも半数が出願するようにしなければならない。今年度の育成計画を検証し、次年度の対策に生かしたい。

()評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状よりわるくなった

重点項目	学校生活																										
重点課題	自主自律の精神に満ちた品格のある生徒集団の形成																										
現 状	<p>(1) 礼儀、時間の厳守、身だしなみなど南高校生としてふさわしい品格が身についている生徒が増えてきている。</p> <p>(2) 生徒が主体的に関われる活動が増え、活発に取り組む生徒が増えてきている。</p>																										
達成目標	<p>(1) 礼儀、時間の厳守、身だしなみなど、南高校生としてふさわしい品格が身についていると感じている生徒の割合 90%</p> <p>(2) 学校生活に主体的に取り組んでいると感じている生徒の割合 90%</p>																										
方 策	<p>(1) 日頃の登校指導や声掛けの中で、あいさつ・身だしなみ、時間厳守等の意識の向上を図る。</p> <p>(2) 外部講師や保護者から着こなしやマナーについて指導していただく機会を設ける。 (マナーセンスアップ教室、さわやか運動など)</p> <p>(3) 生徒が校訓の理念を理解し、それにふさわしい行動ができるよう、生徒会執行部や校紀委員会を中心に多くの生徒が企画、運営に関われるよう工夫する。</p> <p>(4) 現代の社会問題について外部講師から指導していただく機会を設ける。 (薬物乱用防止教室、ネットトラブル対応教室など)</p> <p>(5) 部会の定例化や学年との連携を密にすることで、学校生活の問題点や情報を共有しながら、日常的に学校全体で協力して指導する。</p>																										
達成度 (中間)	<p>校紀委員会実施アンケート結果より (11月実施)</p> <table border="1"> <tr> <td>あいさつ</td> <td>よくできている</td> <td>: 28%</td> <td>できている</td> <td>: 60%</td> </tr> <tr> <td>身だしなみ</td> <td>よくできている</td> <td>: 36%</td> <td>できている</td> <td>: 58%</td> </tr> <tr> <td>時間厳守</td> <td>よくできている</td> <td>: 30%</td> <td>できている</td> <td>: 59%</td> </tr> <tr> <td>品格</td> <td>よく身につけている</td> <td>: 16%</td> <td>身につけている</td> <td>: 75%</td> </tr> <tr> <td>自主自立</td> <td>よく身につけている</td> <td>: 15%</td> <td>身につけている</td> <td>: 68%</td> </tr> </table>		あいさつ	よくできている	: 28%	できている	: 60%	身だしなみ	よくできている	: 36%	できている	: 58%	時間厳守	よくできている	: 30%	できている	: 59%	品格	よく身につけている	: 16%	身につけている	: 75%	自主自立	よく身につけている	: 15%	身につけている	: 68%
あいさつ	よくできている	: 28%	できている	: 60%																							
身だしなみ	よくできている	: 36%	できている	: 58%																							
時間厳守	よくできている	: 30%	できている	: 59%																							
品格	よく身につけている	: 16%	身につけている	: 75%																							
自主自立	よく身につけている	: 15%	身につけている	: 68%																							
これまでの具体的な取り組み状況	<p>(1) 毎朝、校門と生徒玄関で挨拶を交わしながら、生徒の様子を観察し、生徒のあいさつ、身だしなみの意識の向上を図った。学期始めに全職員で交通安全指導を行い、生徒の交通マナーの向上、通学路・送迎ゾーンの危険箇所の確認を行った。</p> <p>(2) 外部講師を招聘し「マナーセンスアップ教室」(1年生)を行った。保護者の方にもさわやか運動に参加していただき、生徒たちの様子を見ていただいた。</p> <p>(3) 6月に実施した地域の清掃奉仕活動(クリーンアップ戸出)では、生徒会執行部の呼びかけに対し、約150名の生徒が自発的に参加した。 合唱コンクール、体育大会、南高祭において、生徒会執行部が企画、運営の主体となり、全校生徒が意欲的に参加した。</p> <p>(4) 外部講師を招聘し、現代の社会問題である「薬物乱用」(2年生)「ネットトラブル」(1年生)の防止教室を開催した。また、生徒玄関には、マナー向上の呼びかけや不審者情報を掲示し、注意を促した。</p> <p>(5) 定期的に生徒指導部会を持ち、指導方針を共有し、学校生活で起こった問題点を学年と協力し、なるべく早めに解決するようにした。問題が感じられた時には、STなどで担任から話をしてもらった。</p>																										
評 価	B																										
学校関係者の意見	<p>・引き続き地域の方から、生徒は礼儀正しく、身だしなみもきちんとしていると評価されるように、種々の活動において生徒自身が自発的に取り組むことを習慣づけるような教育に努めてほしい。</p>																										
次年度へ向けての課題	<p>・生徒自身から自発的なあいさつ、さわやかな身だしなみができるよう積極的に働きかける。</p> <p>・全職員で情報を共有し、意識の統一をはかり、生徒が学校生活の中でより主体的に行動するよう、細やかに対応ができるようにしたい。</p>																										

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学校の活性化	
重点課題	将来への大きな志を持ち、意欲的に学び活動する生徒の育成	
現 状	<p>(1) キャリアデザインプロジェクトSで、自らの生き方や在り方を考え、将来への目標を持たせるような授業を展開している。</p> <p>(2) 生徒会執行部の広報部を中心に、学校行事を地域へ知らせ参観を求めている。近年、目標を高く掲げるようになってきているが、さらにその目標を明確にし、仲間と協力し合って、より積極的に学べるようにするための工夫が必要である。また、地域へ公開することで、社会的な視点を持つ活動へと高められることが期待できる。</p>	
達成目標	<p>(1) キャリアデザインプロジェクトSを通じて、進路目標が明確になった生徒の割合80%以上。</p> <p>(2) 学校行事に際し、地域住民に対しての広報活動を行い、多くの参観を求める。</p>	
方 策	<p>(1) 総合的な学習の時間において、地域の方や同窓生、保護者、大学の教授などの活動を伺う機会をもち、広い視野で将来の目標を考えられるようにする。</p> <p>(2) 体育大会・南高祭において、地域住民へ事前にプログラム等の配布を行い、参観の環境を整える。</p>	
達成度	<p>(1) それぞれの活動の機会には、ワークシートなどを用いて、記録や感想などを記している。 2学年はキャリアデザインプロジェクトSを終了したが、この2年間の活動を通じて、進路目標が明確になった生徒の割合は76.1%。</p> <p>(2) 合唱コンクール・体育大会・南高祭の各行事に先立ち、広報紙「サウスウインド」とプログラムの地域配布を行った。これらの広報活動は地域の方の学校行事への関心に寄与していると考えられ、それぞれ当日には多くの方の参観をいただいた。</p>	
これまでの具体的な取り組み状況	<p>(1) 1学年では、1学期にキャリアデザインゼミナールとして10講座を設け、講師を招いて、職業や社会貢献、生き方などについて伺った。2回予定していたが、2回目は大雨の影響で実施できなかった。 2学期からは、文理選択に向けて学部学科調べを行い、10月には金沢大学を訪問し卒業生からもアドバイスをもらった。さらに、グループごとに興味ある分野の本を読んで知識を得た上で、1月には近隣大学から講師を招いて、模擬授業を実施していただいた。 2学年は、大学連携講座Ⅱとして富山大学の教授からアドバイスをいただきながら(5月研究室訪問、8月本校にて中間発表、10月本校にて講座内発表)グループでの探究的な活動を行った。10月の全体発表のポスターセッションは、1学年や校外へも公開とした。最後に、キャリアプランニングとして、これまで学んだことや各自選んだ書籍から読み取り考えたことをレポートとしてまとめた。</p> <p>(2) 4月には合唱コンクールを通じて新たなクラスの融和を図り、6月には体育大会を通じて団結し、協力し合う姿勢を培った。また、9月の南高祭では生徒会執行部と各クラスが創意工夫を凝らして学校全体を盛り上げた。なお、これらの行事には地域から多くの参観をいただいた。 このほか、6月に生徒会執行部主催のボランティア活動「クリーンアップ 戸出」を地元自治体とともに実施し、2月には生徒会執行部、吹奏楽部、合唱部がいきいきサポートセンター「ゆめ」の訪問ボランティアを行った。 3月には文化部発表「スプリングアートフェスタ」を実施する予定であり、地域への広報活動を行った。</p>	
評 価	B	
学校関係者の意見	<p>・キャリア教育は、毎年同じ内容でなく今後も工夫し、生徒や時代に即した内容で実施してほしい。</p>	
次年度へ向けての課題	<p>(1) キャリアデザインプロジェクトSと称した一連の活動に積極的に取り組ませる工夫は必要。それぞれの活動について、目的と計画を明確にさせる。</p> <p>(2) 富山大学との連携については、テーマ決めから進捗状況について連絡を取り合うようにする。</p> <p>(3) 校内の諸活動を積極的に地域の方に公開し、様々な形で助言をいただくことにより、活動内容に社会的な視点を持たせるようにする。</p>	

()評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった

重点項目	ボランティア活動	
重点課題	1 学年：生徒のボランティア意識の向上 2 学年：自発的なボランティア意識の向上 3 学年：地域と連携したボランティア活動への意欲的な取り組み	
現 状	1 学年：これまでのボランティア活動への参加が5割程度 2 学年：昨年度のボランティア活動への参加が学年の8割程度 3 学年：ボランティア活動への参加が学年の7割程度	
達成目標	1 学年：1年生全員がホームルームその他のボランティア活動に参加する。 2 学年：全クラスがホームルームでボランティア活動を計画し実践する。 3 学年：地域と連携したボランティア活動への参加が学年の8割程度	
方 策	1 学年：①身近なボランティア活動をクラス単位で企画し実践する。 ②生徒会のボランティア企画への参加を促す。 2 学年：①生徒会のボランティア企画や部活動、クラス単位での積極的な参加を促す啓発活動を行う。 ②校内外のボランティア活動の情報提供に努める。 3 学年：①ボランティア活動が実践できるようホームルーム計画を立てる。 ②生徒会のボランティア企画への参加を促す。	
達成度	1 学年：各クラスで企画して、地域または校舎内外の清掃活動を実施。 2 学年：2クラス毎に合同で「クリーン大作戦」を実施。高岡南高校～戸出商店街～戸出駅周辺の清掃活動を実施。 3 学年：5クラス合同HRで「クリーン大作戦」を実施。学校周辺、テニスコート周辺、戸出町内の公園の清掃活動を実施。	
これまでの具体的な取り組み状況	1 学年：各クラスHRで「クリーン大作戦」を実施。1クラスは高岡南高校～戸出商店街～戸出神社周辺の清掃活動、3クラスは学校周辺の清掃活動を実施。 (11/8、2/7) 生徒会企画の戸出七夕祭りの清掃ボランティアに部活動ごとに参加。(陸上部、ソフトボール部、吹奏楽部、ソフトテニス部など) 2 学年：2クラスがHRで「クリーン大作戦」を実施。高岡南高校～戸出商店街～戸出駅周辺の清掃活動を実施。(11/8、2/7) 野球部員で戸出保育園のグラウンド整備を実施(9/11) 3 学年：5クラス合同HRで「クリーン大作戦」を計画、実施。学校周辺、テニスコート周辺、戸出町内の公園の清掃活動を実施。(11/8)	
評 価	A	各学年でも目標を達成した。
学校関係者の意見	・ボランティア活動は、心を豊かにするよい機会なので、地域からさらに広げて、外部のボランティアにも活動の場を広げることにより、人間的にも成長させてほしい。	
次年度へ向けての課題	学校教育においてボランティア活動を行う際、個々の生徒の興味・関心に応えることは難しいが、クラス単位・学年単位で同一内容の活動に取り組むことで、生徒の意識も向上したと思われるので来年度も継続して実施したい。仲間と体験したことを共有することで、ボランティアに対する理解がさらに深まり、更なる活動へと発展させるためにも振り返り学習を重視した活動の実践が望まれる。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	教師力向上	
重点課題	教科、学年、年代を超えて学び合う組織作り	
現 状	<p>(1) 互見授業などを活用し、教科、学年、年代を超えて授業を参観する機会が増えてきたが、互いに学び合う場としてさらに工夫の余地がある。</p> <p>(2) ここ数年で増加した若手教員に対する育成体制が整いつつある。</p> <p>(3) 県外における学校視察や授業研修の機会が減少している。</p>	
達成目標	<p>(1) 他教科の授業を含めた互見授業参観2回以上</p> <p>(2) 若手教員と中堅教員、ベテラン教員が相互に学び合う校内研修の実施回数2回以上</p> <p>(3) 県外の学校視察や授業研修への参加2名以上</p>	
方 策	<p>(1) ①互見授業期間に各教科1名以上の指定公開授業を行う。 ②他教科の授業を含めて、授業を2回以上参観する。 ③報告書を書くことで自分自身の学びを確認する。</p> <p>(2) 年次研修を活かした、若手教員と中堅教員、ベテラン教員が学び合う校内研修を実施する。</p> <p>(3) 年度当初より計画的に県外視察等の予算を確保する。</p>	
達成度 (中間)	<p>(1) 他教科の授業を含めた授業参観の回数2回以上：74%</p> <p>(2) 校内年次交流研修の回数：2回（1学期1回、2学期1回）</p> <p>(3) 県外での研修会参加：2名</p>	
これまでの 具体的な取 組み状況	<p>(1) ①互見授業期間に各教科1名以上の指定公開授業を行う。 ②他教科の授業を含めて、授業を2回以上参観する。 ③報告書を書くことで自分自身の学びを確認する。</p> <p>(2) 年次研修を活かした、若手教員と中堅教員、ベテラン教員が学び合う校内研修を実施する。</p> <p>(3) 年度当初より計画的に県外視察等の予算を確保する。</p>	
評 価	B	
学校関係 者の意見	<p>・新教育課程やICTに関する研修は、報告会を設定して、全教職員で情報を共有するようにしてほしい。</p>	
次年度へ 向けての 課 題	<p>(1) 互見授業、研究授業参観への呼びかけをさらに積極的に行い、参観後の振り返りができるような工夫をする。</p> <p>(2) 今後増え続ける若手教員の育成を、さまざまな年代が関わり合って効果的に行う。</p>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)